

# 埼玉親善大使レポート

川端 杏奈

## 1 プログラムの概要

(1)期 間 2025年7月22日(火)から8月6日(水) (16日間)

(2)派遣先 オーストラリア クイーンズランド州 イエッポーン

(3)内 容 ホームステイ、(平日)イエッポーン高校通学、(休日)ホストファミリーと過ごす

## 2 イエッポーン(Yeppoon)について

イエッポーン(Yeppoon)はオーストラリアクイーンズランド州東部にある美しい海沿いの町です。空港のあるロックハンプトンから約41km北東にあり、グレートバリアリーフへのアクセスが容易なため、観光地としても人気があります。温暖な亜熱帯気候に恵まれており、年間を通じて晴れの日が多いことが特徴です。



## 3 ホストファミリーとの生活

私のホストファミリーのメンバーは、ファザー、マザー、ブラザー(高3)、シスター(高1)、犬2匹でした。

最初は、緊張でなかなか英語が話せませんでしたが、毎日、一緒にカードゲームをしたり、映画を観たりするうちに、会話が弾むようになりました。

また、オーストラリアを訪れるまでは犬に苦手意識があり、仲良くなれるか不安でしたが、毎日学校から帰ってきてから一緒に遊んだり、食事をあげたりしているうちに仲良くなることができ、とても良い思い出となりました。

週末にはビーチでバーベキューをしたり、Yeppoonを案内してもらったり、ゴルフに連れて行ってもらったりするなど、とても充実した時間を過ごすことができました。

## 4 学校生活

私たちは、イエッポーン高校(Yeppoon State High School)に合計7日間、通学しました。この学校は、1969年設立の公立校です。日本語クラスもあり、留学生の受け入れにも積極的です。埼玉県立和光国際高校と姉妹提携もしているそうです。

学校には、大体シスターと2人で、時々ブラザーも一緒に3人で通学しました。家から学校までは、徒歩で15分くらいでした。

登校時刻は9時、下校時刻は15時です。授業は1コマ70分間で、1日に4コマあります。1限は9:10~10:20、2限は10:20~11:30、11:30~12:10のAMブレイク(40分)を挟んで、3限が12:10~13:20、13:20~13:50がPMブレイク(30分)、4限は13:50~15:00でした。ブレイク以外には、授業と授業の間に休み時間がなく、生徒たちは急いで次の授業の教室に向かっていました。

学校では、日本語クラスの生徒2、3人が、バディ(Buddy:相棒、仲間)として毎日交代で私についてくれました。バディは、私と一緒に授業を受けたり、ブレイクを過ごしたりしてサポートしてくれました。バディやバディの友達とは、AMブレイクには一緒にお弁当を、PMブレイクにはお菓子やアイスを食べながら、おしゃべりをして過ごしました。学校の中でお菓子やアイスを吃るのは、私にとってかなり新鮮な体験でした。また、ブレイクの時間に、みんなで体育館に行ってバスケットボールをしたこともありました。

放課後に、他の留学生と、オーケストラのクラブ活動にも参加しました。「何か楽器が弾ける?」と聞かれたので、「昔バイオリンを習っていた」と答えたところ、「じゃあ弾いてみて」と言われ、いきなり楽譜を渡されました。「えっ、初見で?」と一瞬戸惑いましたが、ここまできて躊躇していても仕方がないと覚悟を決めました。スターウォーズのメインテーマなど、約5曲を演奏したところ、みんなに喜んでもらえました。海外では、積極性が大切だと改めて痛感しました。

## 5 週末の生活

7月26日(土)には、他の留学生5人とともに Cooberrie Park Wildlife Centre に行き、オーストラリアの代表的な動物であるコアラやカンガルーと触れ合いました。その後、私は、ホストファミリーと一緒にロックハンプトンにある大きなショッピングモールに行き、その日の夜のバーベキューの材料や、日本へのお土産を買ったりしました。

8月3日(日)には、他の留学生5人とともに、Korana Crocodile Farm に行き、ワニを見学しました。ここでは、ワニの赤ちゃんを抱かせてもらったり、Crocodile と Alligator には違いがあることなどを教えてもらいました。

アクティビティのない時には、ホストファミリーと家で一緒に過ごしたり、ゴルフに連れて行ってもらったりしました。



## 6 日本との違いを感じたこと

### (1) 多様性

オーストラリアは世界有数の多文化国家として知られており、様々な文化が共存し、互いに尊重し合うことが重視されています。多様な背景を持つ人々が暮らしているため、例えばショッピングセンターでは、様々な国や地域の食材が販売されていました。

## (2) 食べ物

様々な種類の食材がありますが、どれも非常に大きく、量が多いです。到着した日の晩御飯の量にはとても驚きました。

また、お弁当も日本とはかなり異なります。毎日ホストマザーがお弁当を作ってくれましたが、サンドイッチとフルーツ、そしてお菓子が入っており、カラフルで見た目にも楽しいものでした。

## (3) 水

オーストラリアでは水が非常に貴重です。そのため、私のホストファミリーの家には、お風呂はありましたがあわざず、シャワーのみを使っていました。さらに、「シャワーの時間は短くしてくれるとありがたい」と伝えられました。また、洗濯は週に2回程度でした。いかに水を大切にしているかがよくわかりました。

## (4) 建物

広い敷地に大きな平家建ての家が建っているというパターンがほとんどでした。日本のような2階建ての家やマンションはほとんどありませんでした。

## (5) 犬

ホストファミリーの2匹のうち1匹はスタッフィー、もう一匹はスタッフィーとダックスフンドのミックスでした。スタッフィーは、正式にはスタッフォードシャーブルテリアという名前のイギリス原産の犬種だそうですが、私は日本では見たことがありません。また、現地では、柴犬のような日本でよく見る犬種は、ほとんど見かけませんでした。

## (6) アルバイト

ホストブラザーとホストシスターは、ショッピングセンターの近くにあるマクドナルドでアルバイトをしていました。時給は日本円で約2000円、日本よりも少し高いと思いました。バイト代は1年間で約100万円だそうです。アルバイトをする理由を尋ねたところ、進学したい大学の学費が非常に高いので、将来に備えてアルバイトをしているとのことでした。

## (7) 車の免許

ある日、ホストシスターに、ホストブラザーは車を運転することができると聞きました。ホストブラザーは17歳なので、日本では車の免許を取ることはできません。オーストラリアの車の免許制度について尋ねてみると、一般的に16歳から仮免許(Learner's Permit)を取得することができ、仮免許取得から一定期間の運転経験を積み、学科試験と実技試験に合格することで本免許を取得することができるそうです。日本との制度の違いに驚きました。

## (8) マイロ

あるバディに、「マイロは好き?」と聞かれ、「マイロって何?」と尋ねたところ、校内の Tuck Shop(売店)に連れて行ってくれました。「これがマイロ。私たちはみんな大好き」と言うので見て

みると、何と、あのグリーンのパッケージで日本でもおなじみの「ミロ」のことでした。「スペルは同じだけど、日本ではミロって呼んでいるよ」と伝えると、そのバディは、とても驚いていました。

#### (9) 学校の授業

積極性の大切さは、学校で授業を受けていても感じることがありました。大部分の授業では挙手制をとっておらず、生徒が疑問に思ったことを、いつでも気軽に先生に質問していました。

#### 7 英語について

最初の頃、私は、ホームステイ先でも、学校でも、話す時に緊張してしまい、なかなか英語が口から出てきませんでした。ただ、せっかくオーストラリアまで来たのにこれではいけないと思い、自分から積極的に話しかけるよう心掛けたところ、ホストファミリーや学校の生徒たちと、徐々に会話が弾むようになりました。

また、学校では、数学、日本語、理科、社会、家庭科、グラフィックデザイン、保健などの授業を受けましたが、耳が慣れてきたのか、内容をほぼ理解できるようになりました。

#### 8 埼玉親善大使としての活動

##### (1) アクティビティ

他の留学生とともに、イエップーン高校において、埼玉県と日本の魅力を紹介するプレゼンテーションとワークショップを行いました。

7月28日(月)には8年生(中2)を対象に、7月30日(水)には7年生(中1)を対象に、同じ内容のアクティビティを実施しました。

プレゼンテーションのテーマは、「日本・埼玉の魅力」でした。内容は、伝統文化、食べ物、アニメ、名所、日本の高校生の放課後、埼玉クイズで、私は名所のプレゼンテーションを担当しました。

ワークショップのテーマは、「日本文化を伝えよう」でした。内容は、習字(名前を漢字にしてみよう)、けん玉、折り紙、コマ、福笑いで、私は、折り紙を担当しました。

大勢の外国の人たちを前にして、埼玉県と日本の魅力を英語でPRするのは生まれて初めての経験でしたが、埼玉親善大使としての責務を果たすため、ベストを尽くしました。

オーストラリアの人たちは、とても感情表現が豊かで、私の拙い英語の説明にも一生懸命耳を傾けてくれたので、終わった時には達成感を味わうことができました。

##### (2) お土産について

埼玉県の物産品の良さを知ってもらえるよう、埼玉県にゆかりのあるものを中心に選びました。



(ホストファミリー向け)

- ・狭山茶
- ・彩果の宝石((株)トミゼンフーツ、本社:さいたま市)
- ・コアラのマーチ(ロッテ浦和工場で生産)
- ・しまむら(本社:さいたま市)のサイトで購入した、ちいかわのトートバッグ
- ・風呂敷(日本風の柄のもの) など

どのお土産も喜んでいただけましたが、特に、ホストマザーはお茶が大好きだそうで、非常に喜んでいただけました。また、面白かったのは、コアラのマーチへの反応です。私はチョコ、いちごのほかに、期間限定の〈練乳ミルク〉を持っていきました。この練乳ミルクが、日本とは季節が逆のオーストラリアの冬をテーマにしたパッケージで、カンタス航空と一緒にオーストラリアの魅力を紹介するものでしたが、ホストファミリーは、「オー、カンタス!」と言って、オーストラリアの航空会社が日本のお菓子とコラボしているのが意外な様子でした。

(学校向け)

- おもしろ消しゴム(お寿司 60個入り) ((株)イワコー、本社:八潮市)
- キットカット(ミニバラエティーパーティーボックス 70枚)

握り寿司の形の消しゴムは、非常に喜ばれましたが、予想外のこともありました。オーストラリアでは、学校で鉛筆を使うのは小学生までらしく、現地の高校生が使用している筆記用具はペンでした。おもしろ消しゴムを、そもそも消しゴムとして使う人はあまりいないかもしれません、現地の高校生はお寿司の形のおもちゃという受け止め方をしていたようです。

キットカットのボックスには、いろいろな味のものが入っていましたが、現地の高校生の間では、一番人気が抹茶味、二番目がお茶つながりでほうじ茶味でした。オーストラリアでは、抹茶が流行っているようで、キットカットに限らず、お菓子は、抹茶など、お茶に関するものが喜ばれるかもしれません。

#### 9 終わりに

この度の、R7埼玉県・クイーンズランド州スカラシップ<高校生短期留学生プログラム>では、埼玉県の姉妹州であるクイーンズランド州において、約2週間にわたり、現地の家庭で、現地の高校生と同様の生活を送らせていただき、大変貴重な経験を積ませていただくことができました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった埼玉県国際課の皆様、クイーンズランド州政府の皆様、私たち留学生を温かく迎え入れていただいたホストファミリーの皆様、Yeppoon State High School の教職員と生徒の皆様、共にこのプログラムに参加した留学生をはじめとする、すべての関係者の皆様に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

今回のプログラムで経験させていただいたことを生かして、将来、埼玉県に貢献することができるよう、英語の学習などについて、今後とも努力を続けていきたいと思います。